

令和 2 年

第 2 回仙北市議会定例会

市 政 報 告

仙 北 市

令和2年第2回仙北市議会定例会 市政報告

令和2年第2回仙北市議会定例会の開会にあたり、主要事項についてご報告します。

はじめに、新型コロナウイルス感染症対策についてです。日本国内でも感染者の拡大、死亡者が発生するなど、国・県においても対策を講じているところです。市では、2月3日に災害連絡室を設置し、感染者が発生した場合の対応について、大仙保健所など関係機関との情報共有、庁内関係部署への情報提供を行い、市内旅館ホテルをはじめ観光業者、市内各学校等への指導を行っています。また、ホームページ等により、観光客や観光施設に対して「新型コロナウイルス・予防のポイント」を7言語で提供しているほか、宿泊施設に対して、感染症等を起因とした経営環境の変化に対する相談窓口等の紹介をするなどの対応をしています。引き続き、手洗いやマスク着用などによる咳エチケットなど、感染予防へのご理解、ご協力をお願いします。

次に、昨年発生した生保内中学校でのパワーハラスメントの事案について、生徒や保護者、市民に与える衝撃、影響は非常に大きく、地方自治体の長としての責任を重く受け止め、二度とハラスメントによる被害を起こさないという強い決意のもと、私の判断により私の給料月額額の10分の1を3ヶ月減額する条例を提案しています。ご審議をよろしくお願いします。

次に、一般会計補正予算（第7号及び第8号）についてです。

第7号の補正額は38万5千円で、追加事業は顧問弁護士関係費です。クニマス未来館設計違算和解金請求訴訟の控訴審に応じる弁護士費用に不足が生じるため、委託料の追加、訴訟終了までの報酬及び訴

訟経費に係る債務負担行為の追加を2月6日付けで専決処分しました。

第8号の補正額は、2億714万1千円の追加で、補正後の額は、231億876万3千円です。主な追加事業は、障害者自立支援給付費、病院事業会計補助金、畜産競争力強化対策整備事業費補助金、農地集積加速化基盤整備事業費などです。第2表繰越明許費補正は追加、第3表債務負担行為補正は追加及び変更、第4表地方債補正は追加、変更及び廃止です。

次に、各部局等の主要事項並びに諸般の状況をご報告します。

【総務部】

◇和解金請求訴訟の経過について

株式会社渡辺佐文建築設計事務所との和解金請求訴訟は、1月17日に判決が言い渡され、原告である市の請求を承認する旨の判決がありました。1月30日付けで被告側が秋田地方裁判所大曲支部へ控訴状を提出したことを2月6日に確認しました。市は、今後も伊勢弁護士を代理人とし、控訴審に応じていきます。現在のところ、控訴状、控訴理由書が市に送達されていないため、控訴の詳細な理由等は判明していません。

◇就職氷河期世代の職員採用について

国では、昨年6月「就職氷河期世代支援プログラム」を取りまとめ、3年間で30万人の雇用を目指すとしていますが、これに関連して、1月23日付けで、地方自治体でも積極的に同世代の採用を進めることについて、総務大臣名で要請がありました。

本市では、新年度の行政職の新規採用者が4人と少なかったことから、職員減となる部署が生じることが避けられない状況となっています。また、行政職の定年退職者が、本年度20人、来年度30人とピークになることから、専門的な知識を有する職員の育成も喫緊の課題となっています。

こうしたことから、総務大臣の要請に応えることもあり、就職氷河期世代

の採用を実施したいと考えています。具体的には、就職氷河期世代(概ね35歳～50歳)に該当し、一定の資格を有することやこれまでの知識経験が豊富なこと、本市への移住定住に結びつくことなどを要件としたいと考えています。また、新角館庁舎の開庁も控えていることから、前期(10月1日付け採用)、後期(令和3年4月1日付け採用)の2回に分けて実施することも検討しています。

◇各診療所の診療体制について

新年度の各診療所の診療体制が決まりましたのでご報告します。

まず、田沢診療所は、3月17日の診療を最後に廃止することになりました。4月からは、毎週水曜日、田沢地区コミュニティホームと田沢湖病院を往復する無料送迎タクシーを運行します。なお、本定例会に施設を廃止するための条例を提案していますので、ご審議をよろしく願います。

神代診療所は、月曜日から木曜日まで週4日の診療となり、金曜日は看護師が常駐し予約制の健康相談日になります。

桧木内診療所は、火曜日の午後の週1回の診療となります。西明寺診療所は、毎週火曜日の午後は休診となります。また、第1、第3木曜日の午後及び最終金曜日の午後は休診となります。

診療所の診療日程については広報3月1日号に掲載し、市民への周知に努めます。

◇仙北市まるごと温泉・健康サミットについて

2月8日、西木温泉ふれあいプラザクリオンを会場に、「仙北市まるごと温泉・健康サミット」が開催されました。これは、仙北市次世代ヘルスケア産業推進協議会の主催で行われ、当日は、議員の皆様をはじめ、約200人が来場し、多くの方々から好評をいただきました。

基調講演では、市と連携協定を締結している株式会社バスクリン(本社 東京都)の薬学博士の石澤太市(いしざわ たいち)さんと、西

明寺診療所市川晋一(いちかわ しんいち)所長から、温泉をテーマとした講演が行われました。パネルディスカッションは、「温泉×健康+αで仙北市を元気にするには」というテーマで行われ、同協議会副会長で黒湯温泉会長の池田泰久(いけだ やすひさ)さんをコーディネーターとし、パネリストには、温泉分野から玉川温泉取締役副社長の畠山米一(はたけやま よねかず)さん、森林浴の分野からは、仙北市ガイドの草薨幸子(くさなぎ さちこ)さん、食の分野からは、ガーデンカフェ&デリカKimotoの料理研究家である木元千恵子(きもと ちえこ)さんを迎え、仙北市の豊富な資源とその活用について、提案をいただきました。

最後に、現代版の湯治文化の再創造を目指す「ヘルスケア宣言」を行い閉会しています。

◇市税等の収納率について

1月末現在の市税等の滞納繰越分収納率は、前年同月比で普通税が2.3ポイント減の16.5%、国民健康保険税が0.2ポイント増の28.7%、後期高齢者医療保険料が2.7ポイント減の27.5%です。また、現年度課税分は、前年同月比で普通税が0.4ポイント増の92.5%、国民健康保険税が1.1ポイント増の79.3%、後期高齢者医療保険料普通徴収分が1.4ポイント減の83.5%となっています。引き続き収納率の向上に全力で取り組みます。

【観光商工部】

◇観光施設・行事等の状況について

冬季の主要観光施設のひとつ、たざわ湖スキー場は雪不足が心配されていましたが、2月上旬から全面滑走可能となりました。昨年同期と比較して若干落ちるものの概ね同程度のお客様がいらっしやっていると伺っています。

観光施設等への宿泊者数は、まだ統計報告が出ていないために数

値は不明ですが、雪不足やコロナウイルス等による感染症への不安などによる出控えなどが影響しているのか、例年に比べて少ない傾向にあるようです。

次に、小正月行事についてです。2月10日の「上桧木内の紙風船上げ」は、直前まで積雪が少なかったことから、農地を圧雪した駐車場の確保ができず、公共交通機関の利用を呼びかけました。しかし、例年混雑する内陸線の利用者も減少し、連休中日の実施だった昨年に比べて大きく落ち込み、5千人の入込となりました。

「角館の火振りかまくら」は、担い手不足により炭俵の確保が困難となり、昨年まで行っていた観光協会主催のイベントをやめたことや、2月14日の各町内の火振りかまくらについても雪不足や雨等により、火振り体験ができない町内が多く、2千人の入込となりました。なお、確保が困難となっている炭俵については、向生保内の老人会、角館高校、わらび座のほか、火振りかまくらを実施する3町内から、制作の申し出があり、観光課で講習会の開催や材料供給等を行っています。今後は、次年度に向け、炭俵の供給体制を整えたいと考えています。

このほか、田沢湖高原雪まつりも雪不足が心配されていましたが、直前の降雪で11体の雪像を作ることができ、恒例の汁ー1グランプリは550杯売れるなど、沢山の方から足を運んでいただきました。

◇平成31年1月から令和元年12月までの観光入込客数等について

2年ぶりに500万人を超え、市内の観光入込客数は503万6千人となりました。台風19号による抱返り紅葉祭への影響など、下半期の客足は減少したものの、春の角館の桜まつりが6年ぶりに140万人を超えるなど、上半期が好調だったことが大きいと分析しています。宿泊者数は50万5千人で、平成30年とほぼ同数でしたが、下半期の宿泊者数の落ち込みが目立ち、来年度以降の秋冬

の誘客について検討が必要と考えています。

インバウンド宿泊者数は、900人減少し、前年比97.7%の約3万7千500人となりました。主な要因は、韓国からの宿泊客が約3千500人減少したことです。

そのような中、農家民宿などの外国人観光客宿泊者数は速報値で、前年より約400人増の約2千500人となりました。訪日目的の変化に加え、一般社団法人仙北市農山村体験推進協議会が、農林水産省の交付金を活用した誘客事業を展開してきたことも大きな要因と考えています。

来年度は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、インバウンド誘客の対象国も広がっていくと考えられることから、引き続き受け入れ体制の整備に努めるとともに、令和3年の東北DCに向けた国内誘客についても、検討していきます。

◇「最高の技 茶文化プロジェクト」について

1月19日から20日まで、東京シティアイを会場に「最高の技 茶文化プロジェクト」が開催され、4市の逸品（仙北市：樺細工、奥州市：南部鉄器、多治見市：美濃焼、掛川市：深蒸し掛川茶）のPRや販売、特産品販売などを行いました。イベントでは美濃焼にいったお茶と特産品のお菓子を提供するお茶カフェが好評で、期間中約5千600人に来館をいただきました。

◇「山の楽市」について

1月18日から19日、東京都町田市の商業施設ぽっぽ町田で、観光と物産展「山の楽市」が開催されました。

今回は8事業者が出店し、首都圏在住のふるさとサポーターの皆様の協力で、あきたこまちや、直送した仙北市の味覚を販売することができ、売上は昨年度を上回りました。株式会社町田まちづくり公社の格別なご支援に、深く感謝を申し上げます。

◇仙北市技能功労者表彰について

1月28日、優秀な技能者を表彰する仙北市技能功労者表彰を行い、建築大工分野で藤田利孝（ふじた としたか）さん、調理分野で櫻田正（さくらだ まさし）さん、菓子製造分野で佐々木正昭（ささき まさあき）さんが受賞しました。これは、技能者の社会的・経済的地位及び技術水準の向上を図り、本市産業の発展に資することを目的に創設され、今回が2回目です。今後もそれぞれの分野において中核的な役割を担い、後継者育成にもご尽力いただくことを期待しています。

【農林部】

◇農作物等における今後の見通しについて

気象庁発表の1ヶ月予報によると、今後も気温が平年より高く推移する見込みで、農作物の生育が早まることが想定されます。このため、作物の軟弱徒長や病虫害の発生などに加え、寒気の一時的な南下による凍霜害等の発生が懸念されます。今後の気象状況に注視し、各生産者や農業団体等に対し情報を広く周知します。なお、現在のところ、積雪による農業施設への被害報告は受けていません。

【医療局】

◇経営改善について

仙北市病院事業の経営改善については、両病院のヒアリング等を通じ、現状の把握と新たな取り組みについての検討を行うとともに、新規の施設基準取得や上位基準への切り替えなどで医業収益の確保に努めてきました。

また、市立角館総合病院においては、株式会社グローバルヘルスコンサルティング・ジャパンのベンチマーク分析の結果に基づき、各部署と業務改善等に向けた協議を行い、他の医療機関での取り組み事例を参考に経営改善策の検討を行っています。

今後は、全国自治体病院協議会の経営診断や総務省公営企業アド

バイザー派遣事業等により指摘された両病院の重点課題や問題点等への善後策について取りまとめを行い、病院事業の経営改善を着実に推し進めるとともに、周辺の医療機関との連携強化を図り、経営基盤の安定化を目指します。